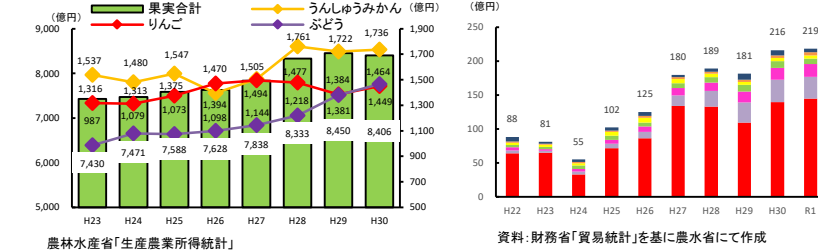


<現 状>

果樹農業の魅力と重要性

- 優良品目・品種への改植等が進んでいること等を背景に、**高品質な国産果実の生産**が行われており、**国内外において高い評価**を受けている。
- 輸出品目としても**高いポテンシャル**を持っており、令和元年には生鮮果実の輸出額が**過去最高の219億円**を記録。

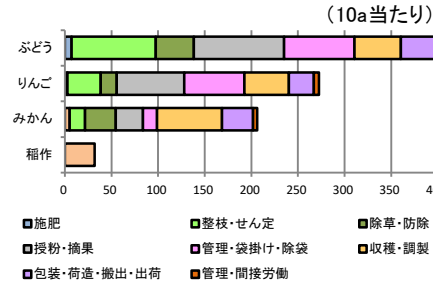
○ 国産果実の産出額の推移 ○ 品目別輸出額の推移(生鮮果実)



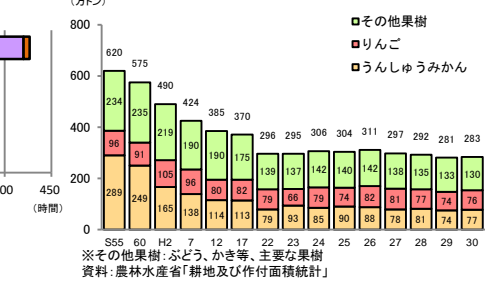
果樹農業の現状と課題

- 他の作物と比較して労働時間が長く、かつ、労働ピークが収穫等の短期間に集中する**労働集約的な構造**のため、**園地の集積・集約化、規模拡大が進んでいない**。
- 果樹の販売農家は**10年で2割減少**。60歳以上がその約8割を占め、**高齢化が深刻**。
生産現場の人手不足等により**生産基盤がぜい弱化し**、人口減少による需要の減少を上回って**生産量が減少**。
- 近年頻発している**大規模自然災害や気候変動**による栽培環境の変化、**鳥獣・病害虫**等の様々なリスクが存在。

○ 主要果樹及び水稲の作業別部門労働時間(10aあたり)



○ 果樹の生産量の推移



流通・加工面における課題

- 集出荷、輸送等の**食品流通**においても**人手不足**が深刻化。
- カットフルーツや醸造利用等の**新たな加工ニーズ**があるものの、生産量の減少等により、**国産加工原料用果実の確保が年々困難**となっている。

<施策の方向>

果樹農業の振興に向けた基本的考え方

供給過剰基調に対応した生産抑制的な施策から、**低下した供給力を回復し、生産基盤を強化**するための施策に転換する。

生産現場における対策の推進

- 果樹の生産基盤を強化するため、
 - ①省力樹形等の導入による**労働生産性の抜本的な向上**
 - ②園地・樹体を含めた**次世代への円滑な経営継承**
 - ③苗木・花粉等の**生産資材の安定供給体制の整備**等を推進。
- 様々なリスクへの対応力を強化するため、
 - ・防災・減災の観点からの**基盤整備の推進**、
 - ・気候変動等に対応した**技術・品種の開発・普及**
 - ・**収入保険や果樹共済**といったセーフティネットへの加入
 等を一層推進。

<生産数量目標>

	うんしゅうみかん	りんご	ぶどう	なし	もも	果実計
平成30年度	774	756	175	259	113	2,833
令和12年度目標	784	819	210	288	124	3,083

(単位:千トン)

市場拡大に向けた対策の推進

- 食の外部化・簡便化等に伴う消費者ニーズの多様化・高度化に対応し、「**より美味しく、より食べやすく、より付加価値の高い**」果実及び果実加工品の供給拡大を推進。
- **輸出拡大**に向けた**生産力の増強**と輸出先国・地域の規制や条件に対応するための**環境整備**等を推進。

流通・加工面における対策の推進

- 出荷規格の見直しやパレット流通体制の構築等の**省力的・効率的な果実流通**への転換を推進。
- **新たなニーズ**に対応した**国産の加工原料用果実**の生産・供給拡大を推進。

<生産基盤の強化>

労働生産性の向上

- 基盤整備の実施
- 省力樹形の導入
- 機械作業体系の導入

円滑な経営継承

- 地域JA 生産者団体
- 技術的なサポート
- 地域での話し合い
- 担い手へ継承

生産資材の安定供給体制

- 苗木: 果樹生産者、苗木業者、行政
- 花粉: 生産者団体JA等
- 大苗の育成
- 花粉専用園地

労働生産性を高めた生産体系

- ドローンによる病害虫防除
- 園内道、作業道の設置
- ほ場モニタリングによる環境データの取得
- 省力樹形を導入した、直線的な樹列による省力的な生産体系
- データに基づく自動かん水による高品質果実生産
- 自動走行車両による作業自動化

<市場拡大に向けた生産供給体制の構築>

消費者ニーズに対応した果実の生産拡大

醸造用ぶどう(垣根栽培)

シャインマスカットの栽培面積 (ha)

年度	面積 (ha)
H24	463
H25	570
H26	683
H27	992
H28	1,196
H29	1,379

果実加工品の開発普及

国産果実を使用した冷凍フルーツ提供: デイブレイク(株)

果実及び果実加工品の供給拡大

消費者

宮崎県産マンゴー「太陽のタマゴ」を使用したケーキ提供: (株)コムサ